運輸サービスセグメント

- **24.3期4Qの鉄道旅客運輸収入は3Qと同水準で推移、25.3期は24.3期下期と同水準を見込む**
- **24.3期の修繕費はコロナ禍における緊急抑制の反動増が生じたが、25.3期は減少する見込み**

【実績】 （単位：億円）

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前年	
営業収益	1,383	1,637	254	118.4%
うち単体・鉄道事業	1,365	1,604	239	117.6%
鉄道旅客運輸収入	1,214	1,450	236	119.5%
営業利益	25	103	78	412.1%
うち単体・鉄道事業	31	105	74	335.4%
EBITDA	131	223	92	170.1%
うち単体・鉄道事業	135	221	86	163.6%

【業績予想】 （単位：億円）

2024年3月期 実績	2025年3月期 通期予想	対前年	
1,637	1,666	28	101.7%
1,604	1,628	23	101.4%
1,450	1,477	26	101.8%
103	149	45	143.3%
105	151	45	143.1%
223	281	57	125.7%
221	278	56	125.6%

主な事業の状況と業績予想の前提

- 4Qの鉄道旅客運輸収入は、定期収入、定期外収入ともに3Q同様の水準で推移。25.3期も同水準での推移を見込む。

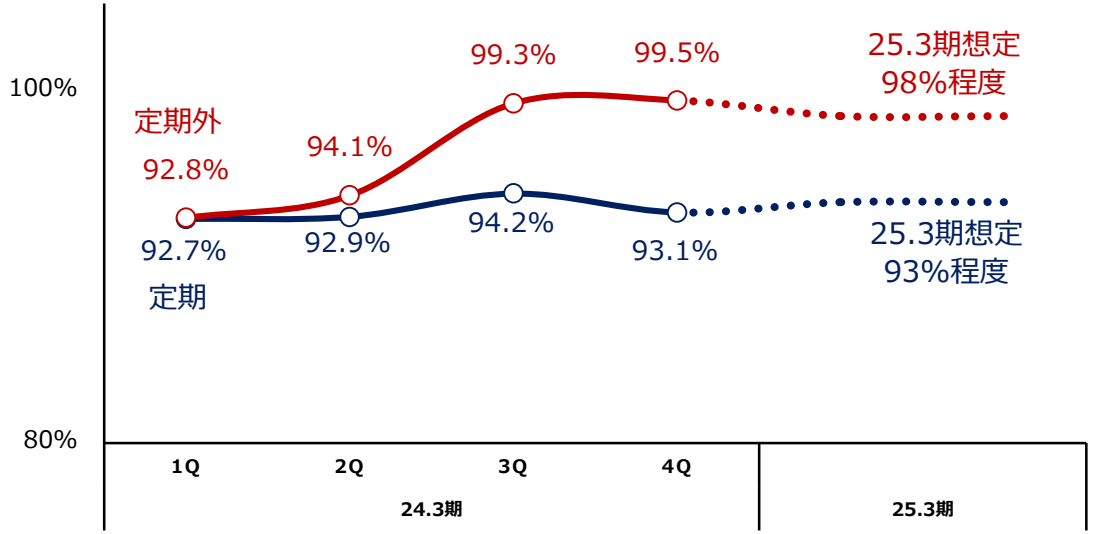
【鉄道旅客運輸収入（19.3期比）】
24.3期実績 95.8%　25.3期想定　97.6%

- 修繕費はコロナ禍に緊急抑制・先送りした修繕費の反動増が24.3期に生じたが、25.3期は減少する見込み

- 25.3期の動力費は、再エネ賦課金の増等により24.3期を上回る見込み

鉄道事業｜鉄道旅客運輸収入（対19.3期）

点線：想定
実線：実績



鉄道事業（輸送データ）

鉄道旅客運輸収入

（単位：億円）

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前年		主な増減要因
全社計	1,214	1,450	236	119.5%	
定期	290	302	11	104.0%	
定期外	923	1,148	224	124.3%	
荷物	0	0	0	133.5%	
新幹線	440	575	135	130.7%	
定期	27	29	2	109.4%	需要の緩やかな回復、西九州新幹線の開業
定期外	413	545	132	132.1%	
在来線	774	875	101	113.1%	
定期	263	272	9	103.5%	需要の緩やかな回復
定期外	510	602	92	118.1%	

輸送人キロ

（単位：百万人キロ）

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前年	
全社計	7,423	8,354	930	112.5%
定期	3,756	3,876	119	103.2%
定期外	3,667	4,478	810	122.1%
新幹線	1,552	1,941	389	125.1%
定期	199	218	18	109.5%
定期外	1,352	1,722	370	127.4%
在来線	5,871	6,412	541	109.2%
定期	3,556	3,657	100	102.8%
定期外	2,315	2,755	440	119.0%

鉄道事業における営業施策

● コロナ禍を経て高まる移動需要を取り込み、更に需要を喚起する施策の推進

新D&S列車「かんぱち・いちろく」の運行開始

運行開始日	2024年4月26日
両数・定員	3両（1・3号車：座席、2号車：ラウンジ） 定員60名（全席グリーン席）
運行区間・頻度	博多－別府間を1日1便片道運行
所用時間	約5時間
価格* *全て旅行商品としての発売	

座種	設備	定員	旅行代金 ※大人1名
ソファ席	グリーン席	15名	18,000円
BOX席		33名	
畳個室		12名	23,000円

- 2023年10月に引退をしたD&S列車「いさぶろう・しんぺい」の車両を改修して使用。
- 「ゆふ高原線の風土をあじわう列車」をコンセプトに、福岡・大分の食材を使用した、曜日毎に異なる食事を提供。

ダイナミックプライシングの試行

- 博多～熊本のインターネット限定の割引きっぷ「九州ネット早特7」(通常3,800円)を対象に、過去の乗車率や予約状況に応じて、列車毎に異なる価格(3,400円～4,200円)で発売するダイナミックプライシングの実証実験を開始。

移動需要と賑わいを生み出すイベント企画

- 人気ゲーム「スプラトゥーン3」とのタイアップイベントを博多駅、長崎駅、大分駅及び鹿児島中央駅で開催。雪玉を用いたアトラクションやオリジナルグッズの販売を実施。

- 九州新幹線部分開業20周年を記念し、ご当地の焼酎を楽しむことができるイベントを新八代駅、新水俣駅、出水駅、川内駅、鹿児島中央駅で開催。

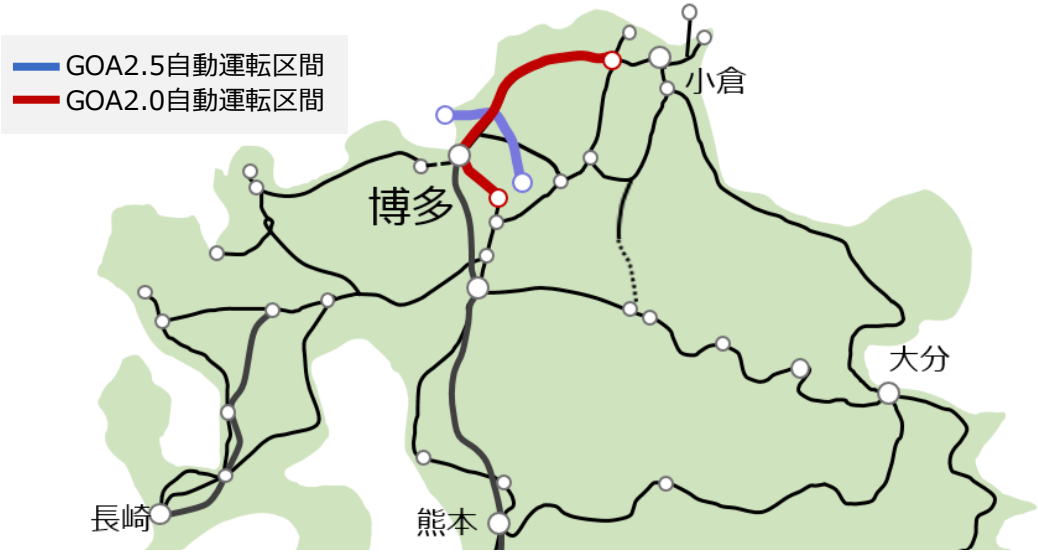
重点戦略❶　事業構造改革の完遂｜鉄道事業（未来鉄道プロジェクト）

- **３月より国内初のGOA2.5自動運転を開始し、並行してGOA2.0自動運転の実証運転を開始**
- **開始から１年が経過した「未来の収支管理」により社員の収支意識に変化が見えるように**

自動運転の拡大と深化

- 2024年3月から香椎線全線（西戸崎～宇美、25.4キロ）で国内初のGOA2.5自動運転*を開始

  *GOA = Grade of Automation



GOA2.5	列車前頭に**自動運転乗務員（運転士以外の係員・社内資格）**が乗務し、緊急停止操作等を行う運行形態
GOA2.0	列車前頭に**運転士**が乗務し、**状況により手動介入等を行う**運行形態

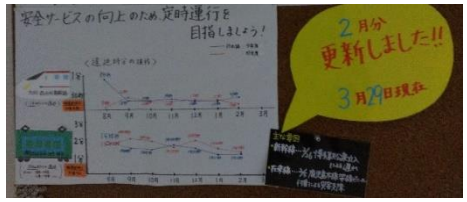
- 2024年3月から鹿児島本線の一部（折尾～二日市、62.3キロ）でGOA2.0自動運転の実証運転を開始

  ※GOA2.0自動運転可能区間は門司港～荒尾(151.6キロ)
- 実証運転結果を、導入負荷の高いGOA2.5自動運転にフィードバックすることで、導入負荷の軽減に繋げていく

目的	速度制御を自動化することでより一層の安全性向上を図るとともに、 異常時対応に注力できるようにすること
特徴	①運転士が手動介入可能 ②地上設備増設不要、車上設備の簡素化 ③走行実績の蓄積による理想的な自動運転の実現

「未来の収支管理」導入後の変化の例

- 「アメーバ経営」を鉄道にカスタマイズした「未来の収支管理」を導入して1年が経過し、各職場で収支意識が醸成

具体例

列車の運行を管理する部門では、輸送人キロにより収入が配分されるため、目標とする遅延時分を設定し、遅延時分の最小化に取り組むことで、列車遅延により生じるお客さまの減を最小化するとともに、社員の超勤削減にもつなげている